

広島女大家政 水野上与志子

目的 急速な人口の高齢化にともない発生する様々な問題として 寝たきり老人の寝衣の中で 褥瘡予防を考慮したオムツ及びオムツカバーは まだ問題点も多く改良の余地がある。今回はオムツ及びオムツカバーの素材について実験検討した。

方法 アンケート調査：家庭介護 49人 施設・病院 5/名の寝たきり老人のオムツ及びオムツカバー使用状態の調査。供試オムツ：綿晒布，紙オムツ 6種。供試オムツカバー地：フェルト 2種 (F₁：フェルト 50；ポリエステル 50，F₂：W 35；P 50) 透湿性防水布 (略号 G) ポリエステルメリヤス布と合成ゴム貼合せ布 (略号 E) ナイロン織布起毛 (N)。微生物の培養：一般細菌用普通寒天培地，真菌用サブロー寒天培地 紅生加工剤：スプレー式

結果 1) アンケートで介護において苦勞する点で「オムツの交換及び洗たく」と同答した人が最も多かつた。2) 使用しているオムツの種類は施設では貸オムツ，家庭介護では綿オムツが多く使用されている。3) オムツカバーに対する不満は「もれる，むれる」が多い。4) 荷重保水量は紙オムツが綿オムツより優れている。特にポリアクリル酸ソーダを含む紙オムツの保水量は最高値を示し，水を吸収するとゲル化するのので肌にくれる表面の不織布は濡れず，上から力を加えても逆もどりせず 皮膚は衛生的な状態を保たれる。保水量が多いため，オムツとりかえの回数が少ない。4) オムツカバーでは透湿性はフェルト F₁ が F₂ より優れ，次いで透湿性防水布 G がよい。褥瘡予防のため微生物汚染を防止するためオムツカバーにスプレー式の衛生加工剤で加工すると 一般細菌，真菌共に著しく菌数は減少し 褥瘡予防上効果的である。洗たく後は再加工する必要がある。